

丹波市 地域学校協働活動 ハンドブック

学校(学び)を核とした
地域づくり・人づくりをめざして



令和8年3月

丹波市教育委員会

P1 はじめに

学校と地域の連携・協働によって期待できる効果

P3 第1章 いま、なぜ学校と地域の連携・協働なのか

1-1 学校と地域の連携・協働の必要性

1-2 「社会に開かれた教育課程」と「たんばふるさと学」

P6 第2章 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動

2-1 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の目的

2-2 学校運営協議会の機能

2-3 熟議(対話)とビジョンの共有の重要性

2-4 地域学校協働活動推進員の役割

2-5 多様な地域人材の参画促進

P12 第3章 役割別ガイド: あなたにできること

3-1 すべての方に共通すること

3-2 学校教職員: こどもたちのために、地域とつながる学校づくり

3-3 学校運営協議会委員: 意思決定と地域意見の橋渡し

3-4 地域学校協働活動推進員: 地域と学校の関係性をつくる・つなぐ

3-5 PTA・保護者: 保護者として活動を通して、どう関わるか

3-6 地域コミュニティ活動推進員: 日常の地域活動と学校との接点

P19 第4章 地域学校協働活動を進めるためのヒント

4-1 会議の話し合いの工夫

4-2 お互いを知るための仕掛け

4-3 活動の立ち上げと運営のコツ

4-4 成果を「見える化」する方法

P24 第5章 地域学校協働活動推進員インタビュー

5-1 地域学校協働活動推進員 大槻 芳裕さん(丹波市立柏原中学校)

5-2 地域学校協働活動推進員 松井 崇好さん(丹波市立東小学校)

P29 第6章 活動に困った時は

6-1 活動・サポート相談窓口

6-2 活動 Q&A

6-3 参考情報集



はじめに

🔍 この章で分かること

学校・家庭・地域がつながる意味と、このハンドブックの目的を紹介します。
「こどもをまんなか」に置いた協働の考え方を共有し、これからの取り組みの全体像をつかみましょう。

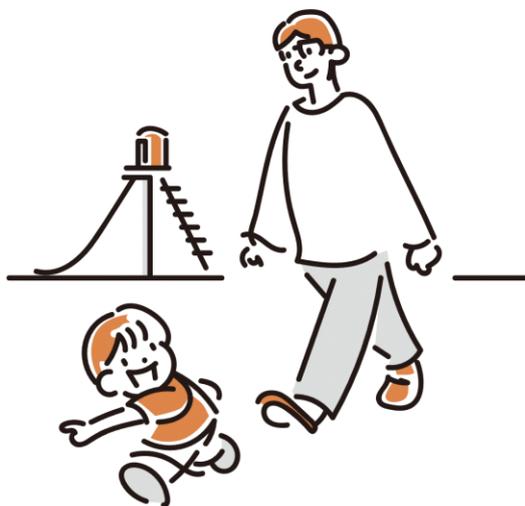
○キーワード

【こどもまんなか】

【協働】

【丹波市の教育】

【地域とともにある学校】



学校と地域の連携・協働によって期待できる効果

こどもたちの視点

・豊かな学びの機会

教室だけでは得られない実体験や多様な価値観に触れることで、学びの幅が広がります。

・安心できる環境

学校・家庭外にも見守る大人がいることで、地域の中にも居場所が増え、安心感が高まります。

・キャリア意識の形成

地域で働く人や多世代との交流を通じて、将来の夢や進路を考えるきっかけが得られます。

教職員の視点

・教育活動の充実

地域の教材や人材を授業や行事に取り入れることで、教育の質を高めることができます。

・社会に開かれた教育課程の実現

学校の教育課程が地域社会の課題に即した学びとなり、こどもが社会の一員として学ぶ機会が広がります。

・学び合いの促進

学校だけで抱え込まず地域と役割を分かち合うことで、教職員も新しい知識や視点を得て成長できます。

保護者の視点

・こどもの成長を実感

地域での学びや活動を通して、こどもの成長を身近に感じることができずす。

・子育ての安心感

学校と地域が協力してこどもを見守る体制により、家庭以外でも安心感が得られます。

・保護者同士・地域とのつながり

活動への参画を通して、他の保護者や地域住民とつながり、子育てを支え合う関係がつかれます。

地域住民の視点

・世代を超えた交流の促進

こどもや保護者、教職員との交流を通じ、世代を超えた人間関係が広がります。

・地域の再発見

活動に参加することで、自分たちの地域の魅力や特色、歴史や文化を再発見できます。

・こどもまんなかの地域づくり

こどもの成長を見守り支えることで、地域に元気と希望が広がります。

このハンドブックは、こどもをまんなかにおき、学校・家庭・地域が対話と協働を通じて、より良い地域社会をつくるための手引きです。

第1章 いま、なぜ学校と地域の連携・協働なのか

この章で分かること

少子高齢化や地域の変化が進む中で、なぜ今「学校と地域の協働」が必要なのかを考えます。「社会に開かれた教育課程」や「たんばふるさと学」など、丹波市の実践を通して背景と意義を学びます。

○キーワード

【社会に開かれた教育課程】

【たんばふるさと学】

【こどもも大人もともに学び、ともに育つ地域社会】

【連携・協働の必要性】



1-1 学校と地域の連携・協働の必要性

丹波市教育委員会では、第3次丹波市教育振興基本計画（令和7年度～11年度）を策定し、「人を愛し ふるさとを想いしあわせのカタチを創造できる 人づくり」を実現するために、以下の5つの基本方針を掲げ、施策に取り組んでいます。

- 1 豊かな人生を切り拓くため 未来を生きる子どもたちに求められる力をはぐくむ
- 2 すべての人が自分らしくいきいきと学び 誰一人取り残さない教育を実践する
- 3 子どもも大人も生涯を通じて楽しく学び続けることができる 地域コミュニティの基盤を支える教育を推進する
- 4 丹波市のひと・もの・ことなかて地域を学び考え ふるさとを愛する心をはぐくむ
- 5 新たな時代の学びを支え 誰もが安全・安心に過ごせる学びの土壌を豊かにする



活動のヒント！

〇子どもも大人もともに学び、ともに育つ地域社会へ

人口減少や少子高齢化の進行、家庭環境の多様化、地域コミュニティの希薄化など、現代社会には子どもの学びや成長に影響する課題が数多くあります。また、「人生100年時代」を迎え、子どもだけでなく大人も生涯にわたり学び続けることが求められています。このような社会的背景の中で、学校と地域が連携・協働することで、子ども一人ひとりの学びの機会を増やすとともに、大人も地域で学び成長していくことができます。学校と地域が互いの力を持ち寄り、子どもと地域の未来をともにつくる協働の仕組みは、学校や地域の課題に対応し、持続的な地域づくりや地域の教育力の向上を実現するために不可欠です。

学校と地域の連携・協働を効果的に進めるための仕組みの中核となるのがコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動です。丹波市では、すべての小中学校に学校運営協議会を設置しており、地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民や団体と連携した取り組みが広がりつつあります。こうした取り組みによって、子どもは地域で多様な学びを得られ、大人も学びや活動を通して地域力を高めることが可能となり、持続的な地域コミュニティの形成が実現していきます。

1-2 「社会に開かれた教育課程」と「たんばふるさと学」

現代社会はAIの発展やグローバル化、人口減少や少子高齢化など、先を見通しにくい時代です。こうした中で、子どもたちが一人で生きる力を身につけるだけでなく、多様な人と協力して課題を解決できる力を身につけることが求められています。また、地域全体で子どもを育てることは、持続的な地域コミュニティの形成にも直結します。「社会に開かれた教育課程」は、変化の激しい現代社会を子どもたちがたくましく生き抜くために、学校教育を社会とつなげていこうとする考え方を大切にしています。これは学習指導要領の大きな柱の一つであり、学校だけで完結する教育ではなく、社会・地域と協力して子どもを育てることをめざしています。丹波市では「たんばふるさと学」として、地域の自然・歴史・文化を題材にした教科横断型のカリキュラムを各小学校で導入しています。

「社会に開かれた教育課程」の3つのポイント

- ・学校と社会が「よりよい社会を創る」という目標を共有すること
- ・これからの社会に必要な力（思考力、判断力、表現力など）を明確にしてはぐくむこと
- ・地域の人材や資源をいかし、学校と地域が協力しながら教育を進めること

たんばふるさと学のねらい

○ふるさとを知り、誇りを持つ

先人の功績や地域の歴史・文化を学び、郷土への愛着と関わろうとする気持ちを育てる。

○人と出会い、体験する

地域の人から話を聞き、体験することで、豊かな人間性や社会性を身につける。

○心を動かすふるさと体験

美しい自然や地域の人の熱意や思いに触れ、感動する心や他者を思いやる心を育てる。

○学ぶ意欲と主体性

地域課題を解決する学習活動を通して、達成感を味わうことで、学ぶ意欲や自分で考えて行動する力をはぐくむ。



活動のヒント！

「社会に開かれた教育課程」の推進のためには、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動だけでなく、子どもや地域の実態に合わせて教育課程を編成・実施し、常に改善していく、カリキュラム・マネジメントが必要となります。

「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、丹波市では「たんばふるさと学」に取り組み、地域の人・自然・歴史・文化などの教育資源を活用した学習や活動を進めていくことで、地域に対する認識を深め、愛着や誇りを養うことを目的にしています。具体的には、農作業や伝統行事、文化財の調査などの体験的な活動を通じて、子どもたちは地域への愛着や誇りはぐくみます。また、地域の方々がゲストティーチャーとなり、学校と一緒に子どもの学びを支えています。

第2章 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動

この章で分かること

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の仕組みと役割を理解し、どのように動き始めればよいかを紹介します。対話（熟議）やビジョンづくり、推進員の活動など、協働を進めるための基盤を整理します。

○キーワード

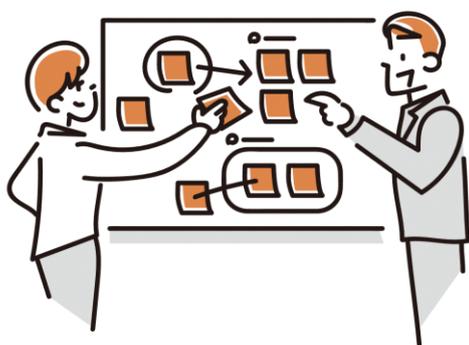
【コミュニティ・スクール】

【学校運営協議会】

【熟議（対話）】

【ビジョン共有】

【地域学校協働活動推進員】



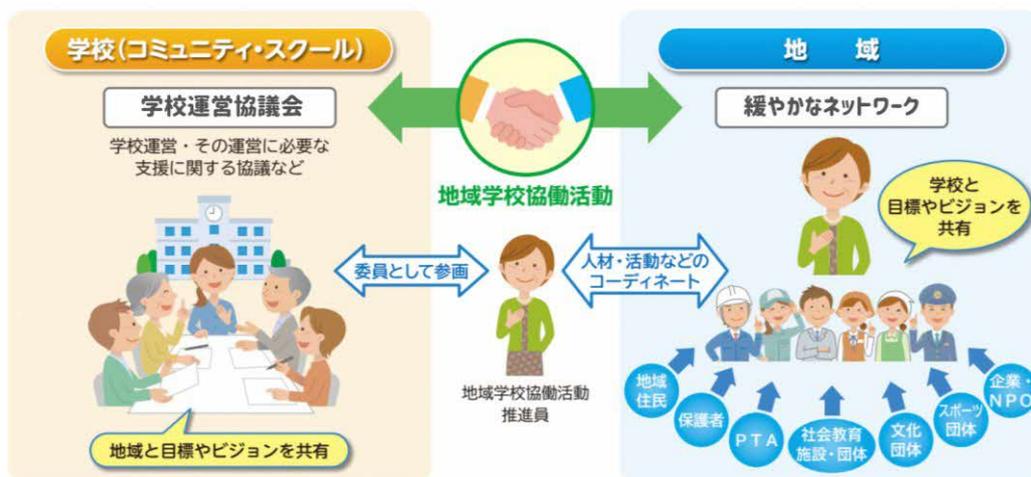
2-1 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の目的

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)と地域学校協働活動は、学校と地域の連携・協働を制度化し、組織的・継続的に推進するための両輪となる取り組みです。

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を通じて地域住民や保護者が学校運営に参画し、学校・家庭・地域が共通の目標に向かって連携・協働する仕組みです。単に意見を聴くだけではなく、学校運営について地域も責任を持って取り組むことで、「地域とともにある学校づくり」を実現します。

地域学校協働活動は、地域の多様な人材や資源を活用して、学校の教育活動を支援し、地域課題の解決に向けて学校と地域が協働して取り組むことで、「学校(学び)を核とした地域づくり・人づくり」を実現します。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一つの取組として



地域学校協働活動

たんばふるさと学／見守り活動／地域での体験学習
総合学習・探究学習／キャリア教育／防災活動／地域づくり活動等

※文部科学省の図を基に作成



活動のヒント!

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進めるためには、まず関係者で目標やビジョンを共有することが重要です。学校運営協議会の協議や熟議等がその役割を果たし、その結果を踏まえ、地域学校協働活動に幅広い地域住民が参画することによって、学びの充実につながります。地域学校協働活動推進員は、学校と地域それぞれのニーズを踏まえ、人材や活動をコーディネートする役割を果たしています。

2-2 学校運営協議会の機能

学校運営協議会は、校長が作成する学校運営の基本方針を承認し、学校運営について意見を述べることができます。丹波市では、すべての小中学校に設置されています。

学校運営協議会の3つの機能

1. 校長の学校運営基本方針の承認機能
2. 学校運営に関する意見機能
3. 教職員の任用に関する意見機能

丹波市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則



効果的な運営のポイント

多様な委員構成

保護者、地域住民、事業者、社会教育関係者など様々な立場からの参画を促す。

ビジョンの共有

育てたいこども像について継続的な対話をする。

情報の共有

学校の現状や課題、地域の状況について詳細な情報交換を行う。



活動のヒント!

○「話し合い」・「実践」・「ふりかえり」のサイクルが信頼関係を生む

コミュニティ・スクールでは、学校運営協議会を通して学校の方向性を「話し合い」「決める」機能があり、地域学校協働活動はその方向性を「実践する」機能を担います。この2つが連動することで、「学校運営協議会でビジョンを共有」し、「地域学校協働活動で実践」し、「結果を学校運営協議会でふりかえる」という「協働のサイクル」が生まれます。「話し合い」「実践」「ふりかえり」を繰り返すことで、地域と学校の信頼関係が育ち、持続的な協働体制が築かれます。地域住民が当事者として学校運営に関わることで、学校・家庭・地域が一体となった教育環境が生まれ、以下の点が実現します。

こどもたちの豊かな学習体験

学校の教育力向上

地域住民の学びと成長

持続的な地域コミュニティの形成

【参考】3-3 学校運営協議会委員

2-3 熟議(対話)とビジョンの共有の重要性

学校運営協議会の最も重要な機能は、関係者がこどもたちの成長について「熟議」を重ね、共通のビジョンを形成することです。熟議とは、立場や世代の違いを超えて、こどもたちの幸せのために建設的な対話を行う取り組みです。

熟議(対話)の特徴と効果

多様な意見の集約

こどもに関わる多くの関係者の意見を取り上げ、様々な視点から課題を検討することで、より良い解決策を見つけることができます。

相互理解の促進

学校と地域それぞれの現状や課題、可能性を理解し合うことで、現実的で効果的な取り組みを企画できます。

地域全体でこどもを育てる意識の向上

単に意見を聴くのではなく、一緒に考え、一緒に取り組む仲間としての関係を構築し、地域全体でこどもを育てる意識を高めます。



活動のヒント!

○効果的な熟議(対話)の進め方

①現状や課題の共有

データや具体事例を用いた現状の課題認識の共有

②育てたいこども像の明確化

こどもたちの具体的な成長の姿・目標の設定

③取り組みの検討

学校・家庭・地域の連携した取り組み案の検討

④役割分担と実践

誰が、いつ、何を行うかを明確化し、実践

⑤ふりかえりと改善

定期的な成果のふりかえりと次に向けた改善

【参考】第4章 地域学校協働活動を進めるためのヒント

2-4 地域学校協働活動推進員の役割

地域学校協働活動推進員は、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターとして、地域学校協働活動の企画・調整・推進において中核的な役割を担っています。丹波市では、各校区への推進員の配置を進め、学校と地域の効果的な連携・協働を支援しています。

地域学校協働活動推進員の主な役割

連絡調整	企画・立案	ネットワーク構築	活動支援
学校と地域住民・団体との連絡調整	学校のニーズと地域の資源をマッチングした活動を企画	地域の多様な人材・団体とのネットワーク形成	具体的な活動の準備・運営サポート
活動に必要な人材の発掘と依頼	地域の特色をいかした独自の取り組みの立案	関係者間の信頼関係の構築と維持	事前説明と当日の運営支援
日程調整や会場確保などの調整	年間を通じた計画の作成	他校区の推進員や関係団体との連携	安全管理や事故対応の体制整備
関係者間の情報共有の促進	新しい活動分野の開拓と提案	情報交換の場づくりと交流促進	活動後のフォローアップと関係維持



活動のヒント!

○地域学校協働活動推進員として大切にしたいポイント

○学校との密接な情報交換・連携

定期的に学校を訪問し、教職員との情報交換を行います。学校の年間計画や教育目標を理解し、それに沿った活動を企画することで、教育効果の高い取り組みを実現します。

○地域の現状に合わせた活動の展開

各地域の特色、人材、資源を十分に把握し、その地域ならではの活動を企画します。既存の地域活動との連携も重要なポイントです。

○無理のない、継続的な活動運営

参加者の負担を考慮し、無理のない範囲で継続できる活動を心がけます。小さな成功体験を積み重ねながら、段階的に活動を拡充していきます。

【参考】3-4 地域学校協働活動推進員

2-5 多様な地域人材の参画促進

地域学校協働活動を充実させるためには、年齢、職業、経験、特技など様々な背景を持つ地域住民の参画が重要です。それぞれの持つ知識や経験、技能をいかして子どもたちの学びを支えることで、より豊かな教育活動が実現します。固定的な組織ではなく、個人の都合や関心に応じて柔軟に参加・参画できる「ゆるやかなネットワーク」を形成することが大切です。

参加・参画促進のための仕組みづくり「ゆるやかなネットワークの形成」

地域人材の把握

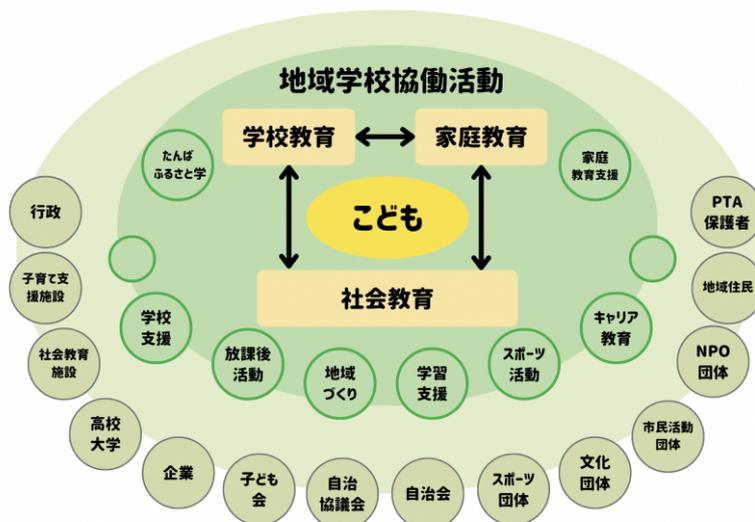
地域住民の関心分野や提供可能なサポート内容の事前登録

段階的に参加・参画できる仕組み

見学→単発参加→運営参加→企画への参画の段階的展開

得意分野で活躍できる仕組み

住民一人ひとりの関心や特技を最大限にいかす役割分担



地域全体で子どもを育てる「ゆるやかなネットワーク」



活動のヒント！

○「地域全体で子どもを育てる」意識から地域づくりへの広がり

地域学校協働活動は、学校区内にとどまらず、事業所、福祉施設、NPO、高校、大学など、校区外の多様な人や組織ともつながることで広がりを持ちます。たとえば、地域の企業がキャリア教育を支援したり、福祉団体が共生社会をテーマに活動したりと、地域の多様な力をいかすことができます。地域全体で子どもを育てる意識が、持続的な地域づくりの基盤となります。

第3章 役割別ガイド：あなたにできること

この章で分かること

教職員、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、PTA・保護者、地域コミュニティ活動推進員など、それぞれの立場で「どのように関われるか」を具体的に紹介します。自分の経験や強みをいかしながら、無理なく協働に参加するヒントを見つけましょう。

○キーワード

【こどもまんなか】

【役割分担】

【参加と協働】

【強みを活かす】

【つながりづくり】



3-1 すべての方に共通すること

子どもまんなか社会の実現に向けて

国において、子どもの意見を尊重し、すべての子どもが安心して学び、成長できる「子どもまんなか社会」をめざしています。地域と学校が連携し、子どもの声を聴き、思いを活動にいかしていくことが、これからの教育の基本的な方向性です。

丹波市では「丹波市子どもの権利に関する条例」を制定し、「すべての子どもが生まれながらに持っている権利の内容を明らかにし、子どもの権利を守るための社会の責務や役割を定めることにより、子どもが健やかに自分らしく成長し、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができ、社会を実現すること」をめざしています。地域学校協働活動においても、子どもたちの「やってみたい」「関わってみたい」という意欲を起点に、地域の大人がそれらを支える関係を育んでいくことが大切です。



「丹波市子どもの権利に関する条例」チラシより抜粋



活動のヒント！

○子どもの声を聴く

どの立場においても、子どもたち自身の意見や感想を聴くことが、活動をより良くする第一歩です。授業後や行事後に「どんなことを感じた？」「次にやってみたいことはある？」と問いかけることで、子どもが活動の主体になります。子どもが主役となる活動は、地域の大人にとっても学びの場となり、子どもも大人もともに育つ関係が生まれます。

3-2 学校教職員：

こどもたちのために、地域とつながる学校づくり

地域の「ひと・もの・こと」を教育活動に取り入れることで、教室だけでは得られない体験を通じて知識と実践が結びつき、こどもたちの学びは格段に豊かになります。また、こどもたちと地域をつなぐ機会を設けることで、地域への愛着もはぐくまれます。



活動のポイント

◎教科・領域での地域連携

○総合的な学習の時間

「たんばふるさと学」を核として、地域の特色をいかした探究的な学習を展開。

- ・地域の農家と連携した食育・環境学習
- ・地域の歴史や文化財を調べる郷土学習
- ・地域課題の解決に向けた提案活動

○各教科での活用例

日々の授業でも、地域の素材や人材をいかすことで、学びにリアリティが生まれます。

- ・国語：地域の方言や昔話の聞き取り
- ・算数・数学：地域の統計データを使った学習
- ・理科：地域の自然観察、地域企業の技術者による実験
- ・社会：地域の歴史調査、市議会見学



活動のヒント！

○地域連携を始めるための第一歩

地域とつながる取り組みは、難しく考えずに「できることから」始めることが大切です。

- ・身近なところから：保護者の職業や特技を把握し、授業での協力を依頼
- ・地域学校協働活動推進員との連携：年度初めに教育目標や年間計画を共有
- ・段階的な取り組み：ゲストティーチャーの招聘から始め、徐々に拡大

○継続的な関係づくりのポイント

一度きりの交流で終わらせず、地域とともに育つ学びにしていけるためには、関係を丁寧に重ねていくことが鍵です。

- ・地域の方への感謝の気持ちをこどもたちと共に表現
- ・活動の成果を地域に報告し、次年度への協力を依頼
- ・無理のない範囲での協力をお願いし、持続可能な関係を構築

【参考】1-2「社会に開かれた教育課程」とは

3-3 学校運営協議会委員： 意思決定と地域意見の橋渡し

学校運営協議会委員は、学校と地域をつなぐ重要な「橋渡し役」です。学校が掲げる教育目標や方針を地域の立場から確認し、意見を述べることによって、学校運営に地域の声を反映させることができます。同時に、学校の方針を地域に伝え、理解と協力を広げる役割も担っています。

学校運営協議会は、単に校長の方針を承認する場ではありません。地域の意見を丁寧に拾い上げ、学校運営に反映させていく過程が大切です。そのためには、会議に出席するだけでなく、地域住民と日常的に対話し、地域のニーズや思いを知り、協議会に伝え、一緒に考えることが求められます。さらに、協議会で議論した内容を地域にわかりやすく伝えることで、学校への信頼を高め、活動の輪を広げることができます。

活動のポイント

○学校運営への参画

- ・学校の教育目標や方針を地域の立場から確認し、意見を述べる
- ・学校課題の改善に向けた提案や意見交換

○地域との対話と発信

- ・地域住民や団体からの声を日常的に収集
- ・自治協議会での議論をわかりやすく地域に伝える
- ・自治会や自治協議会など、他の場でも学校の様子を共有する

○熟議を通じたビジョン共有

- ・「育てたいこども像」を共に描く
- ・学校と地域が共有できる教育の方向性を議論

○信頼関係づくりのポイント

- ・こどもの幸せを共通の視点に据える
- ・意見の違いを尊重し、建設的な対話を心がける

【参考】2-2 学校運営協議会の機能

3-4 地域学校協働活動推進員： 地域と学校の関係性をつくる・つなぐ

地域学校協働活動推進員は、学校と地域を結ぶ「つなぎ役」であり、活動の調整役です。こどもたちのために何かしたいという地域の思いと、教育活動をより豊かにしたいという学校の思いを結びつけ、実際の活動に形づくる役割を果たします。

地域学校協働活動推進員の役割は、学校と地域団体との連絡調整、人材の発掘と依頼、活動当日の運営サポート、情報発信など、その範囲は広く、大切な視点は「人と人をつなぐ」ことです。特別な専門知識よりも、人の思いを受け止め、つなぐ力が求められます。

実際の活動では、小さなことから始めることがポイントです。例えば、地域の方を授業に招く、行事を一緒に企画するなど、小さな成功体験を重ねることで、学校と地域の信頼関係は強まります。推進員自身も「無理のない範囲で続ける」ことを意識しながら、活動が自然と広がっていくように工夫していきます。

活動のポイント

○教育における役割

- ・学校のニーズと地域人材をマッチングする
- ・小さな実践からこどもの学びを支え、活動を広げる

○地域づくりにおける役割

- ・住民の活躍の場をつくり、ネットワークを広げる
- ・学校と地域双方に顔を出し、地域コミュニティ活動推進員とともに協力体制を築く

○大切にしたい視点

- ・小さな成功体験を積み重ねて、学校と地域の信頼関係を育てる
- ・活動を無理なく続けられる工夫をする
- ・「人と人をつなぐ」を軸に動く
- ・学校のスケジュールや時間割、教職員が動きやすい時間を把握する

活動のヒント！

○社会教育士との連携

社会教育士は、ファシリテーションやコーディネート専門人材として、学びや協働の場をつくり、地域の人が主体的に関われる環境づくりを支援します。丹波市教育委員会では、地域学校協働推進員や社会教育士の活躍機会の拡充を進めています。

【参考】第5章 地域学校協働活動推進員インタビュー

3-5 PTA・保護者： 保護者として、活動を通してどう関わるか

PTA や保護者の活動は、学校教育を支えるだけでなく、地域との協働を進める上でも大きな力となります。保護者は家庭と地域をつなぐ存在であり、自らの子育てと重ねながら「地域の子どもたち全体」を支える役割を果たしています。保護者が積極的に協力する姿勢を示すことで、地域住民も「一緒に関わろう」と思いやすくなり、自然に子どもをまんなかに置いた、連携・協働の輪が広がります。

また、保護者一人ひとりが持つ職業経験や趣味・特技は、子どもたちにとって貴重な学びの資源となります。例えば、料理が得意な人が家庭科の授業を手伝う、歴史好きな人が郷土学習に関わるなど、身近な関わりが子どもたちの世界を広げます。大切なのは、「自分の子どものため」から一歩広げて「地域の子どもたちのため」という意識を持つことです。その意識が、学校・家庭・地域をつなぎ、連携・協働の基盤を強めます。

活動のポイント

○教育における役割

- ・PTA 行事や授業協力を通じて学校生活を支える
- ・保護者の特技や経験をいかして学びを豊かにする

○地域づくりにおける役割

- ・PTA 活動に地域を巻き込み、協働の輪を広げる
- ・保護者同士のつながりを地域に広げる

○大切にしたい視点

- ・「わが子」から「地域の子どもたち」へ視点を広げる
- ・保護者自身も楽しみながら参加する
- ・学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育てる意識

3-6 地域コミュニティ活動推進員： 日常の地域活動と学校との接点

地域コミュニティ活動推進員は、日頃から地域づくりに関わっている経験をいかして、地域学校協働活動推進員と連携して地域と学校をつなぐ役割を担います。これまで地域で大切に積み重ねてきた防災・福祉・文化活動などに、「学校や子どもたちが関わるきっかけ」を少しずつ加えていくことで、学びと地域づくりがより一体的に進んでいきます。具体的には、登下校の見守り活動、学校と連携した防災訓練や地域行事における子どもたちの活動や発表の機会づくりなどがあります。こうした活動は、子どもたちが地域の一員としての自覚を持ち、住民にとっては多世代とのつながりを感じる場となります。これまでに取り組んでいる**既存の活動**に“子どもたちの参画”という視点をプラスすることが大切です。

子どもたちが安心して暮らし、地域全体で子どもがはぐくまれる環境を実現するために、地域コミュニティ活動推進員は地域と学校をつなぐ役割として、学校や子どもとの接点を意識することも重要となります。

活動のポイント

○教育における役割

- ・地域の大人から地域の歴史や文化を伝え、子どもたちの郷土愛をはぐくむ
- ・地域の防災活動に子どもたちの学びの要素を加える

○地域づくりにおける役割

- ・既存の地域行事に子どもたちが活躍できる機会を作り、世代を超えた交流を促す
- ・活動を通じて住民の学びや生きがいのきっかけを生み出す

○大切にしたい視点

- ・「子どもたちが関わるきっかけ」を、地域活動に少しずつ加えていく
- ・子どもと大人がともに学び、育ち合う場を大切にする
- ・地域の未来を見据えながら、持続的に活動を重ねていく

第4章 地域学校協働活動を進めるためのヒント

この章で分かること

地域学校協働活動を進めていくうえで大切なのは、「お互いを理解し合い」「協力しやすい仕組みを整え」「成果を共有しながら育てていく」ことです。最初から完璧をめざすのではなく、小さく始め、少しずつ広げることが大切です。この章では、会議やコミュニケーション、活動づくり、情報発信などの実践に役立つヒントを紹介します。

○キーワード

【話し合い】

【関係づくり】

【活動づくり】

【見える化】



4-1 会議の話し合いの工夫

会議は「決める場」と同時に、「思いを共有する場」です。話し合いの進め方を少し工夫するだけで、互いの理解が深まり、協働の方向性が見えてきます。



活動のヒント！

○話し合いを深めるポイント

- ・はじめに話し合いの目的を確認し、「今日のゴール」を共有する
- ・一人ひとりの意見を尊重し、否定せず受け止める
- ・議題は「報告型」より「対話型」へ（問いつくり、一緒に考える形式に）
- ・議事録は「決定事項+次のアクション」を明確にする

○会議の場づくりの工夫

- ・机の並びを「コの字型」「円形」にして、顔の見える配置にしてみる
- ・「こども」「地域」「学校」など、テーマごとにグループ討議を取り入れる
- ・会議の最後に「今日の気づき」や「一言ふりかえり」を全員で共有する

○話し合いの進め方の工夫

会議では、全員が安心して発言できる雰囲気づくりが大切です。小さな工夫が、参加者の主体性を引き出し、対話の質を高めます。

- ・付箋や模造紙を使い、意見を書いて見えるようにする
- ・沈黙も大切な意見として受け止める
- ・ファシリテーター（※）に進行をお願いしてみる

※会議や議論、研修などの場で、参加者の意見を引き出し、議論を活性化させながら、設定された目的に沿った結論へと導く進行役のこと。

○チェックリスト

- 会議の目的やゴールが明確に共有されている
- 話しやすい雰囲気づくりができている
- 会議後に「次に誰が何をするか」が整理されている

4-2 お互いを知るための仕掛け

協働の原点は「人と人のつながり」です。まずはお互いを知り、関心や得意分野を共有することで、活動の幅が広がります。



活動のヒント！

○関係づくりの仕掛け方

- ・年度はじめに「顔合わせ会」や「自己紹介タイム」を設ける
- ・各メンバーの特技・関心・所属団体をリスト化し、共有する
- ・学校行事や地域イベントに招き合い、活動を見合う
- ・会議や行事の前後に「雑談タイム」を設けて関係を深める

○情報共有の工夫

- ・年間カレンダーを共有し、学校行事・地域行事を把握する
- ・「コミスクだより」「地域学校協働だより」でメンバーの紹介を載せてみる
- ・SNS やメールで日常的な連絡を取り合う

○こどもの意見をとり入れる

児童会・生徒会の意見を聴いたり、活動の感想を話してもらったりして、「こどもと大人が対等に話せる場」を意識しましょう。



実践から学ぶ！

令和6年度船城地区(小学校・PTA・自治協議会)行事予定表

月	学校	PTA	自治協議会	その他
4月	8日：始業式 9日：入学式 18日：全国学力学習状況調査 18日、19日：家庭訪問 27日：参観日	9日：第1回役員会 21日：自給奉仕会 23日：家庭訪問 27日：PTA総会	9日：令和5年度会計発表 19日：自給奉仕会 23日：第1回定づくり委員会	23日：自治協議会
5月	2日：1年生を迎える会 16日：交通安全教室 27日～31日：自然学校	10日：第2回役員会 23日：家庭訪問の日	23日：通学靴会	23日：自治協議会総会 23日：自治会委員会
6月	1日：創立記念日 13日：プール開池 14日：オープンスクール 14日：引渡し訓練 18日：入場式 27日～28日：船舶祭	11日：水難救助講習会 11日：第3回役員会 14日：オープンスクール 15日：全校親子活動 23日：家庭訪問の日	10日：歴史探しの福カマ 23日：第2回定づくり委員会 23日：ふなまの夏祭り	23日：内定市一斉クイズ 23日：自治会委員会
7月	2日：入学式 5日：船形水泳 19日：始業式	12日：第4回役員会 02日～29日：地区水泳 23日：家庭訪問の日	10日：歴史探しの福カマ 23日：船城ふるさと祭り 実行委員会 豊かみ園遊園地・ラジオ体操	23日：自治会委員会
8月	10日～14日：学校開校日	14日：開校式 18日：PTA奉仕作業 23日：家庭訪問の日 25日：PTA奉仕作業準備日	14日：開校式 18日：PTA奉仕作業 23日：PTA奉仕作業支援	23日：自治会委員会
9月	2日：始業式 5日～6日：作品展 20日：運動会準備 21日：運動会 25日：開校祭	13日：第5回役員会 24日：運動会PTA総括 25日：家庭訪問の日	9日：歴史探しの福カマ 23日：自治会委員会	23日：自治会委員会

春日地域の船城地区では、小学校・PTA・自治協議会の行事予定を一つにまとめた「カレンダー」を作成し、学校教職員・保護者・地域住民が共通で見られるようにしています。学校と地域の予定が一目で分かり、イベントの重なりを防ぐだけでなく、「この日に行ってみよう」、「手伝ってみよう」といった参加のきっかけが生まれています。日々の行事や活動の情報を見える化することで、「地域全体でこどもを育てる」雰囲気づくりにつながっています。

○チェックリスト

- お互いの顔と名前、役割を把握できている
- 連絡手段(SNS・メール等)が共有されている
- 情報発信の方法(広報紙・SNS)が継続的に運用されている

4-3 活動の立ち上げと運営のコツ

協働活動を始めるときは、「小さく始めて」「ゆるやかに広げ」「無理なく続ける」ことがポイントです。関わる人が安心して参加できるよう、運営体制と進め方を工夫しましょう。



活動のヒント！

○活動を立ち上げるステップ

- ・活動のテーマを決める(こどもたちの学び・地域の課題など)
- ・関係者を集める(学校・地域団体・保護者など)
- ・目的と役割を共有(誰が何を担うかを明確に)
- ・小さく始める(1回の体験やイベントから始める)

○運営をスムーズにするポイント

- ・「コアメンバー会議」を設け、協議会以外でも気軽に相談できる場を持つ
- ・会議と活動を分けず、「話しながら進める」「動きながら考える」スタイルに
- ・担当者が一人に偏らないよう、複数体制で支え合う
- ・活動後のふりかえりを重ねて次につなげる

○協働活動づくりシート(企画シート)の活用

活動を企画・実施していくときには、目的や流れ、関係者の役割を整理して共有することが大切です。その際に役立つのが、「協働活動づくりシート」です。活動のねらい・対象・協力者・準備内容などを簡単にまとめておくことで、関係者の間で共通理解を持ちながら進めることができます。記録として残すことで、次年度への引き継ぎや振り返りにも活用できます。「完璧に作る」ことが目的ではなく、「対話のきっかけ」として使うことがポイントです。

※「協働活動づくりシート」のフォーマットは P32 をご確認ください。

協働活動づくりシート(フォーマット例)

このシートは、地域学校協働活動やコミュニティスクールの取組を企画・共有するためのツールです。活動の目的・関係者・進行内容を整理し、関係者間の共通理解を深めることを目的としています。

活動名	ふるさと体験デー「地域の達人に学ぶ」
実施日・場所	2025年10月15日(水) 丹波市立〇〇小学校・体育館
活動のねらい	地域の人の知恵や技を学び、ふるさとへの理解と愛着を育てる
対象	小学5年生(40名)
主な関係者・協力者	学校教職員、地域学校協働活動推進員、自治協議会、PTA、地域の農家・伝統工芸士など
内容・進行	1. 開会・挨拶(10分) 2. 体験活動(60分) 3. ふりかえり(20分) 4. 写真・感想まとめ
準備すること	材料の手配、安全確認、案内文書の作成、ボランティア打ち合わせ
安全・配慮事項	火や刃物の扱い、アレルギー対応、動線確認
当日の役割分担	校長:全体挨拶 推進員:進行・調整 地域講師:体験指導 保護者:補助・安全確認 (以下、実施後に記入する)
ふりかえり	こどもたちの感想を共有し、次年度は地域を広げたテーマで実施予定

◎活用のポイント

- ① みんなで書く。学校・地域・保護者が一緒に考えながら書くことで、共有と納得が生まれる。
- ② 途中でも更新する。計画段階だけでなく、実施後に「ふりかえり」を書き加えて次に活かす。
- ③ 形式にとらわれない。A4一枚で十分です。シンプアルにまとめることで使いやすさが増す。
- ④ 共有して残す。学校・推進員・自治協議会で1部ずつ共有しておくことで、年度をまたいだ連携がスムーズになる。

○チェックリスト

- 活動の目的と役割が共有されている
- コアメンバーが定期的に集まり、情報を共有している
- 小さな活動から始め、ふりかえりを行っている

4-4 成果を「見える化」する方法

活動の成果を「見える形」で共有することは、協働のやりがいと次への意欲を高めます。成果の大きさではなく、「誰が・どのように・何を感じたか」を丁寧に伝えることが大切です。



活動のヒント！

〇見える化のアイデア

- ・活動の写真、こどもの感想をまとめ、学校や地域の施設内に掲示・配布する
- ・「コミスクだより」の発行や学校、自治協議会の広報に掲載
- ・学校や地域の Instagram、Facebook 等の SNS で情報発信
- ・年度末に年間活動記録集をつくり、次年度の参考にする

〇ふりかえりの工夫

- ・ふりかえり会議を実施して「できたこと・課題・次にやりたいこと」を整理
- ・活動後のアンケートや感想カードで、参加者の意見を伺う
- ・成果だけでなく、「実施の過程の中で工夫した点」や「変化しているポイント」も共有

活動の成果を「こども」「学校」「地域」の3つの視点でふりかえると、協働の変化が見えやすくなります。また、成果は数値だけでなく、「笑顔」「出会い」「会話の数」など、心の変化として記録することも大切です。「小さな変化を共有する」ことが、協働を続ける力になります。



実践から学ぶ！



丹波市立東小学校学校運営協議会では、活動の様子やこどもたちの表情を、学校運営協議会委員や保護者、地域の方々により身近に感じてもらうため、SNSを活用した発信に力を入れています。カメラ撮影が得意な地域住民の方にも協力してもらい、活動の記録や写真づくりを一緒に行うなど、発信の場面にも“地域のか”がいかされています。こうした取り組みを通じて、学校と地域が互いの活動を知り合い、応援し合う関係性が生まれています。

〇チェックリスト

- アンケートを実施して、活動の成果や変化を可視化している
- 活動を通じたこどもの成長や地域の変化を振り返っている
- 広報や SNS を活用して情報発信を行っている

第5章 地域学校協働活動推進員インタビュー

Q この章で分かること

丹波市内の地域学校協働活動推進員2名の実践を通して、現場での工夫や大切にしている思いを紹介します。活動を支える人の姿から、協働を続けるためのヒントを見つけましょう。

○キーワード

【こどもと地域の変化】

【実践事例】

【地域学校協働活動推進員の想い】

【地域学校協働活動マップ】

※「地域学校協働活動マップ」のフォーマットはP32をご確認ください

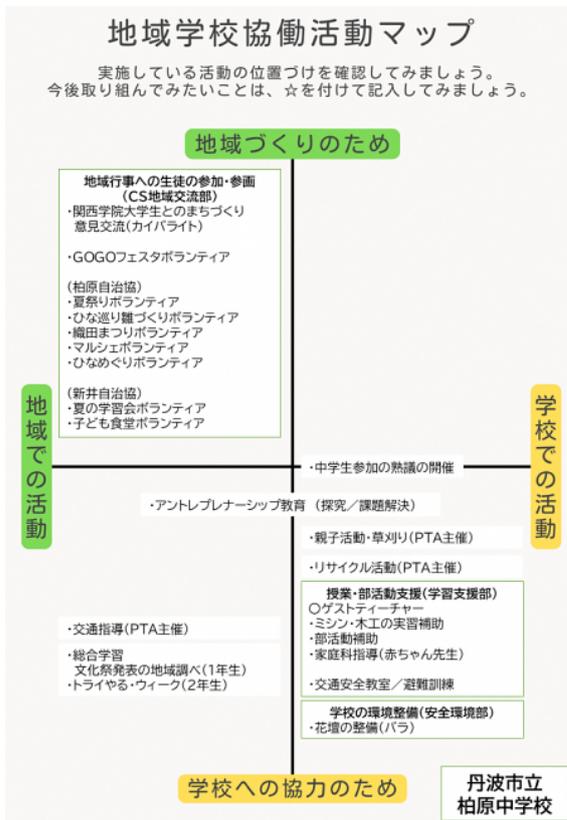


5-1 大槻 芳裕さん(丹波市立柏原中学校)

◎丹波市立柏原中学校(R7 年度:生徒数 254 名)

<主な取り組み>

- ・柏中熟議(地域の大人と中学生の対話)
- ・地域行事への中学生ボランティア参加
- ・学校教育活動へ地域住民が参画(技術科・家庭科 講師等)



「丹波かいばら雛めぐり」で来場者の案内係をする柏原中学校の生徒たち



中学生と地域の大人がいたいまちの姿や学校の姿をテーマに対話をする「柏中熟議」

1 推進員になったきっかけは何ですか？

推進員になる以前は校長をしていました。退職後、次の校長先生から「地域学校協働活動推進員として活動してほしい」と声をかけられたことがきっかけでした。元々、校長時代から“中学生がもっと地域に出でいける環境をつくりたい”という思いが強くありました。小学生には地域学習の機会が比較的多い一方、中学生は地域と関わるきっかけが少ない。だからこそ、祭りやイベント、地域のお手伝いなど、「地域に出でいく最初のきっかけ」をつくる役割が必要だと思っていました。そしてもう一つは、先生方の負担をできるだけ減らしたいという思いです。

2 活動を通して子どもたちはどんなふうに変化していますか？

まず、中学生の中には「地域で活動したい」「ボランティアに興味がある」という生徒が思った以上に多くいます。一度参加した生徒は、次も行ってみようかな、と友達を誘うなど行動が広がる傾向があります。ただし、まだ参加者の“裾野”は広くありません。全体の1割程度の生徒しか参加していないのが現状。それでも毎年少しずつ、活動が“受け継がれていく”様子は見えてきています。

3 推進員として大切にしていることは何ですか？

人と人の「つながり」を丁寧につくることです。地域の方には「先生ではなく、大槻さんと呼んでください」といつもお伝えしています。気軽に相談できる関係をつくるのが、結果として中学生の活動の幅を広げてくれます。そして、先生に負担をかけないことを大切にしています。チラシづくり、日程調整、連絡、受け入れ先との調整等、できる限り学校に仕事を残さない。これを徹底しています。

4 地域学校協働活動で取り組んでいきたいことは何ですか？

人口減少や地域活動の担い手不足は、柏原地域でも深刻です。だからこそ、中学生が地域の一員として関わり、将来“戻ってきたくなる”経験をつくるのが大切だと考えています。例えば、「自治会の夏祭りで中学生の活躍の場をつくる」、「企業と中学生がつながるトライやるアクションの活用」、「公民館や地域拠点での居場所づくり」です。また、今後は地域学校協働活動の予算を活用して、“参加しやすい環境”を整えていけると考えています。

5 エ夫しているポイントを教えてください！

○オープンチャットでの情報発信

活動の様子や募集情報を日々発信し、地域の理解と参加者を少しずつ増やしています。ゆくゆくは、オープンチャットの情報について、全戸配布の案内も検討しています。

○新しい受け入れ先の発掘

毎年同じ人・同じ団体に偏らないよう、技術科や家庭科の地域講師や着付けの外部講師について、企業とも連携しながら、新しい関係づくりをしています。



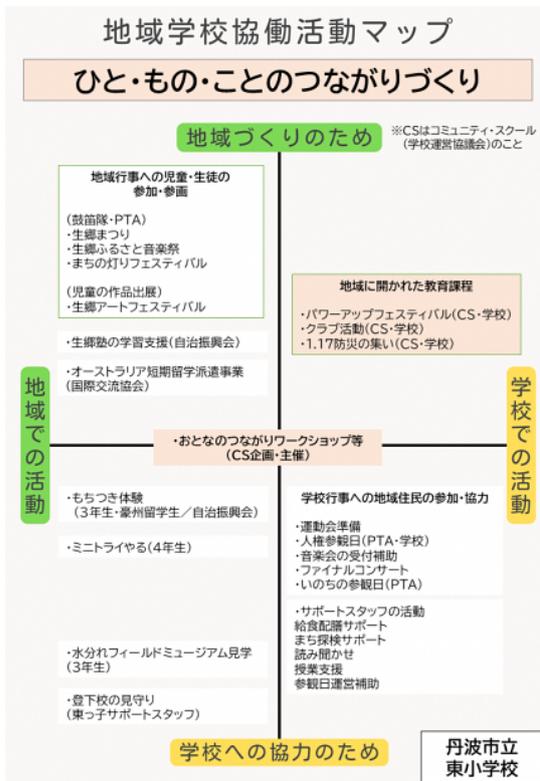
平瀬校長(写真左)と大槻芳裕さん(写真右)

5-2 松井 崇好さん(丹波市立東小学校)

◎丹波市立東小学校(R7年度:児童数 280名)

<主な取り組み>

- ・こどもの声をかたちにしたクラブ活動
- ・地域連携によるパワーアップフェスティバル
- ・学校運営協議会の委員全員が関わる活動ミーティングの開催



おとなのつながりづくりワークショップでは、学校運営協議会委員と教職員がフラットに対話をした。



こどもの声をかたちにしたクラブ活動。カフェ部では地域の方にもお客さんとして来ていただいた。

1 推進員になったきっかけは何ですか？

令和5年度に東小学校のPTA会長と丹波市PTA連合会の役員を務めたことが、活動の原点です。一年間、学校に深く関わる中で、先生方の思いや学校の課題がよく見えるようになり、「地域としてもっと力になれることがある」と感じていました。そんな時、前任の推進員さんが退任されることになり、校長先生からお声がけをいただきました。最初は役割もよくわからず、戸惑いもありましたが、「これまでの経験をいかせるかもしれない」と思い、引き受ける決意をしました。今振り返ると、この一步が大きな転機になったと思います。

2 活動を通して子どもたちはどんなふうに変化していますか？

地域の方々や企業の皆さんに関わっていただくと、子どもたちの表情が本当に変わります。6年生から「やりたいクラブ活動」をヒアリングして実現した、クラブ活動で市内のゲストをお呼びした時、子どもたちが驚くほど生き生きし、初めて見るような“本気の顔”を見せてくれました。「こんな表情をするんだ」と先生方が驚かれることも多く、学校の中だけでは出会えない学びの機会が、子どもたちの視野を広げているのを強く感じます。

3 推進員として大切にしていることは何ですか？

私が心がけているのは、「自分が主役にならない」ということです。あくまで主役は子どもたち、学校、地域の皆さん。私はその間をつなぎ、力が発揮される場を整える“縁の下のコーディネーター”でありたいと思っています。そのためにも、「無理に前に出ない」、「その人の得意や想いを引き出す」、「お互いが話しやすい環境を整える」ことを大切にしています。

4 地域学校協働活動で取り組んでいきたいことは何ですか？

私が思い描くのは、「もっと自然に、地域と学校が支え合う関係」です。行事に人を集めることを目的にするのではなく、「誰のために、何を大切にしたいのか」という目的を共有しながら進めたいと思っています。例えば、学校のランチルームで子どもたちと地域の高齢者が一緒にお昼ご飯を食べる場を開く、避難所づくりを子どもたちと地域住民が一緒に体験するなど、学校を地域の“学びと交流の拠点”としていかしていくことも、これから挑戦していきたいことのひとつです。

5 工夫しているポイントを教えてください！

○みんなの得意を活かす

人と人をつなぐことが好きなので、「この人とこの人なら面白いことができそう」という感覚を大事にしています。

○できる限り学校に立ち寄る

時間に限りはありますが、学校の様子を見ると分かることが多いので、できるだけ先生と直接話す時間をつくるようにしています。

また、事業や活動において「誰のために、何をするのか」をブレずに判断したいと考えています。



松井崇好さん(写真中央)

第6章 活動に困った時は

Q この章で分かること

活動を進める中で生じる疑問や悩みに応える相談窓口やQ&Aを紹介します。
社会教育主事・社会教育士をはじめ、地域の力を借りながら協働を続けるための
サポート情報をまとめています。

○キーワード

【相談窓口】

【社会教育主事】

【社会教育士】

【Q&A】

【参考情報集】



6-1 活動・サポート相談窓口

○学校教育やコミュニティ・スクールにおける活動

丹波市教育委員会 学校教育課

〒669-3198

丹波市山南町谷川 1110

電話番号：0795-70-0811

○地域学校協働活動・PTA 活動

丹波市教育委員会 社会教育・文化財課

〒669-3198

丹波市山南町谷川 1110

電話番号：0795-70-0819



○地域づくり活動

丹波市 まちづくり部 市民活動課

〒669-3692

丹波市氷上町成松字甲賀 1 番地 (氷上住民センター内)

電話番号:0795-82-0409



活動のヒント!

社会教育主事・社会教育士に相談してみる

丹波市教育委員会には、社会教育の専門職「社会教育主事」が配置されています。社会教育主事は、地域や学校で行われる生涯学習・社会教育の取り組みに対して、専門的・技術的な助言や支援を行う役割を担っています。

また、市内では「社会教育士」として活動する人も増えており、人と人、組織と組織をつなぐコーディネート力を発揮しています。社会教育士は、地域の学びや協働の場を支える存在として、参加の場づくりや対話（熟議）の場のファシリテーションを行い、人々の思いを引き出しながら、主体的な参画を促します。

活動の進め方に迷ったときや、地域との協働を広げたいときは、ぜひ気軽に丹波市教育委員会の社会教育主事（社会教育・文化財課）に相談してみましょよう。

6-2 よくある相談とヒント

Q1 協力してくれる人がなかなか見つかりません。

A 無理に増やそうとせず、まずは関心のある人と小さく始めましょう。成功した経験を共有することで、「自分も関わってみよう」という仲間が少しずつ増えていきます。

Q2 せっかく協力してくれた人が続かないのですが…。

A 「お願い」より「ありがとう」を伝えることが大切です。活動後に写真やメッセージで感謝を共有、成果を地域の広報で紹介すると、次も関わりたいと思ってもらえます。

Q3 若い人の参加が少ないです。

A 若い世代には「単発」「短時間」「自分の得意をいかせる」形が合います。SNSでの発信協力やイベント手伝いなど、ライトな関わり方から声をかけてみましょう。

Q4 学校との距離を感じます。

A 学校に立ち寄る機会を意識してつくと距離が縮まります。行事や授業の見学、放課後の打合せなど、日常の中で顔を合わせる事が信頼の第一歩です。

Q5 学校の先生が忙しくて、なかなか相談できません。

A まずは「いつ・どのように連絡をとるか」を決めておくことが大切です。年度初めに年間行事予定を共有し、推進員を通じて情報交換のタイミングを設けましょう。

Q6 活動が続きません。

A 完璧にしようせず、「小さな成功」を積み重ねることがポイントです。「去年より少しくまかった」「笑顔が増えた」などの変化をチームで共有し、次への意欲につなげましょう。

Q7 責任が一部のみに偏ってしまいます。

A 「担当を決める」より「一緒に考える」スタイルに変えると続きやすくなります。打合せの場で「誰が得意そう?」「一緒にやれる人いる?」と声を掛け合い、負担を分散しましょう。

Q8 SNS 発信が不安です。

A 個人情報に配慮し、活動の雰囲気、こどもの感想、地域の人々の声などを中心に発信します。顔が写る場合は、本人や保護者の同意を得たり、学校に確認したりしましょう。

Q9 活動の成果をどう共有すればいいですか?

A 「できたこと」だけでなく、「感じたこと」「変化したこと」を伝えることが大切です。掲示板・広報紙・SNS・ふりかえり会など、多様な方法で「みんなで育てた活動」として発信しましょう。

6-3 参考情報集

<p>○学校と地域でつくる学びの未来 「学校・家庭・地域が連携・協働」に関する文部科学省ポータルサイト コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の関連情報など 必要な情報を掲載しています https://manabi-mirai.mext.go.jp/index.html</p>	
<p>○全国の取り組み事例 地域と学校が連携・協働した活動の事例を掲載しています。 https://manabi-mirai.mext.go.jp/jirei/index.html</p>	
<p>○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動のガイドライン・ 手引き等 https://manabi-mirai.mext.go.jp/document/guideline/</p>	
<p>○文部科学省「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286156.htm</p>	
<p>○社会教育士について 地域学校協働活動推進員が社会教育士の称号を取得することで、 学校と連携してより魅力的な教育活動を企画・運営できるなど、 多方面での活躍が期待されます。 https://www.mext.go.jp/a_menu/01/08052911/mext_00667.html</p>	
<p>○丹波市地域学校協働活動推進員設置規則 https://www.city.tamba.lg.jp/section/reiki/reiki_honbun/r394RG00002244.html</p>	
<p>○協働活動づくりシート フォーマット ○地域学校協働活動マップ フォーマット https://www.city.tamba.lg.jp/soshiki/shakaikyoikubunkazaika/gyomuannai/12311.html</p>	

「丹波市地域学校協働活動ハンドブック」 学校(学び)を核とした地域づくり・人づくりをめざして

令和8年3月発行

発行: 丹波市教育委員会 社会教育・文化財課

〒669-3198

丹波市山南町谷川1110番地

電話番号: 0795-70-0819

本冊子は丹波市のHPに掲載しております。

下記のURL又は2次元バーコードからご覧いただくことができます。

<https://www.city.tamba.lg.jp/soshiki/shakaikyoikubunkazaika/gyomuannai/12311.html>

